

目 次

P1 新年あいさつ 《活動報告》		県支部長 福田 一郎
P2 LRT 見学の報告		県支部幹事 龍田 則男
P3 第6回 宇都宮大学コラボレーション・フェアの報告		県支部幹事 西谷 元則
P4 とちぎ♡ライフスタイルフェスタ 2025 の出展報告 《特 集》		県支部幹事 西谷 元則
P5 協賛団体技術者の紹介	株式会社栃ケース設計	広瀬 紀之 氏
P6 ものづくりに携わる浙江省科学技術庁職員等との交流と産学官への訪問見学		県支部幹事 龍田 則男
P11 技術サロン @栃木 の報告		県支部幹事 井本 郁子
P12 茨城県支部との合同見学会報		県支部長 福田 一郎
P14 12月 CPD 講演会・懇親会 の報告		県支部幹事 富田 卓哉
P15 広報委員長のよもやま話		県支部広報委員長 西谷 元則
P16 協賛団体紹介		

新年あいさつ

県支部長 福田一郎

謹んで新春のお祝いを申し上げます。会員、協賛団体、関係団体の皆様にとって、この一年が輝かしい年となりますよう御祈念申し上げますとともに、日頃より当支部活動に御理解、御支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、昨年の活動を振り返りますと、CPD研修会として、8月には建設部会と合同でLRT検査修理場見学会を実施し、宇都宮市建設部長・矢野公久氏を講師に「ライトライン誕生までの軌跡」と題した御講演をいただきました。また、9月には株安田測量の安田晃昭氏を講師に「産業用ドローン測量の動向と建設DXの展望」、12月には宇都宮大学の山本美穂教授を講師に「流域によみがえる御用川400年の流れ」について御講演をいただきました。

9月には、昨年度に引き続き「宇大コラボレーションフェア」に出展し、技術士制度や支部活動についてパネル展示による紹介を行いました。男女共同参画委員会では、11月に「技術サロン@栃木」を初めて開催し、女性技術者を取り巻く環境の現状や課題について意見交換を行いました。

国際委員会では、6月に支部と交流のある浙江省科技和人材服务中心へ7名の訪日団を派遣し企業訪問を実施するとともに、10月には訪日団24名を招聘し、企業や学校等の見学、さらには赤岩副知事への表敬訪問を行いました。企業支援委員会、防災支援委員会等につきましても、計画に基づき活動を進めてまいりました。これら行事の実施にあたり、担当された各委員長をはじめ、役員の皆様に心より御礼申し上げます。

今年の干支は、60年に一度巡ってくる丙午です。「情熱」「変化」「力強さ」を象徴し、歴史的な転換期や大きな変化の年といわれています。地球規模での気候変動、少子高齢化社会への対応、内外政治の不透明さが増す中、DX（デジタルトランスフォーメーション）やAI、IoTをはじめとしたデジタル技術は日々進展しています。技術士には、最新の技術や情報を学び、俯瞰的な視野に立って活動していくことが求められています。



支部発足から 15 年目を迎える本年、諸先輩方が積み上げてこられた実績を踏まえ、支部発足のモットーである「地域の人と文化と技術をつなぐ架け橋」に少しでも資するよう、支部運営に努めてまいります。

特に、支部会員約 220 名の資質向上の一助となる CPD 研修や中小企業支援、地域社会貢献活動等につきましては、各委員会が中心となって取り組んでまいりますが、活動を支える役員の皆様には、引き続き下支えを賜りますようお願いいたします。また、各種支部行事には、多くの会員の皆様に御参加いただきますよう、重ねてお願い申し上げます。

結びに、支部運営にあたりましては、引き続き「挑戦」「継続」「連携」を重視してまいりたいと存じます。協賛団体並びに関係機関の皆様には、より一層の御理解と御支援をお願い申し上げ、新年の御挨拶といたします。

《活動報告》 本部建設部会との合同見学会・講演会報告

県支部会員 龜田 則男

1. 見学会

令和 7 年 8 月 29 日（金）、2023 年に開業した宇都宮市の「ライトライン（以下、LRT）」について、本部建設部会と栃木県支部の合同見学会・講演会を開催した。

午前中は見学会を実施。参加者 28 名（本部 19 名、支部 9 名）は、始発駅である JR 宇都宮駅東口に集合し、LRT に乗車して平石にある LRT 検修庫を見学した。

見学では、宇都宮ライトレール㈱の今井部長より、車両の愛称「ライトライン（LIGHTLINE）」の由来や特色、公設型上下分離方式による運営などについて説明を受けた。

「ライトライン」という名称は「雷（LIGHT）」と「道筋（LINE）」に由来し、シンボルカラーは黄色とダークグレー。雷の稲光と先進性を象徴する流線型のデザインには、市民の意見が反映され、愛着と誇りを持ってもらうことを意識した結果であるとの説明があった。

2. 講演会

午後の講演会は、ライトキューブ宇都宮小会議室 107・108において「ライトライン誕生までの軌跡」と題し、宇都宮市建設部長の矢野公久様より、ライトラインがどのような課題を乗り越え、どのような思いと技術によって誕生したのか、その経緯についてご講演いただいた。

講演は会場（対面）と WEB 会議の併用方式で行われ、参加者は会場 33 名、WEB58 名であった。内容は、ライトラインの現況、開業までの経緯、国道 4 号平出交差点付近のルート選定、鬼怒川渡河橋、こだわり抜いた車両デザイン、事業成功のポイントなど、多岐にわたり、長年にわたり事業に携わってきた講師ならではの視点と裏話が交えられた大変貴重な講演となった。

軌道法や都市計画法に基づく制度的枠組みの中での前例のない挑戦、鉄道事業の知識が乏しい中での軌道



写真 1 見学会参加者の集合写真

構造や停留場の設計、鉄道法令に基づく検査対応に奮闘した職員の苦労。さらに、400名に及ぶ用地取得交渉や、小学校至近を通過するルートに対して学校関係者・保護者から寄せられた児童の通学路の安全性、振動・騒音による学習環境への影響などの強い懸念に対し、丁寧に対応を重ねた経緯など、事業の臨場感にあふれる内容であった。

講師が最後に事業成功的なポイントとして挙げたのは、

- ① 公設型上下分離方式の採用
- ② バス事業者との協働
- ③ 交通管理者・道路管理者との連携 であった。

筆者は特に②の「バス事業者との協働」が大きな成功要因であったと考える。当初は難航した協議であったが、地域全体の公共交通の利便性向上という共通目的のもと、段階的な対話と調整を重ねたことで協力体制を築き上げることができた。この転換こそが、一大事業であるライトライイン成功のターニングポイントとなったと強く感じた。

講演会終了後、本部役員と支部幹事により意見交換会も行われ、初めての本部建設部会との合同見学会・講演を終了した。



写真2 講演会の様子

第6回 宇都宮大学コラボレーション・フェアの報告

県支部幹事 西谷 元則

日時：令和7年9月18日 13:00～17:00

会場：マロニエプラザ（栃木県立宇都宮産業展示館）

スタッフ：福田一郎支部長、亀田則男副支部長、井本郁子（地域社会貢献副委員長）、西谷元則（地域社会貢献委員長）の4名

宇都宮大学では「地域活性化のエンジン」として、産学官金連携の推進による社会課題解決と産業振興を目的に、栃木県内最大級の展示・講演イベントである『コラボレーション・フェア』が開催されました。

展示会では、産学官金それぞれの立場から、事業紹介や、シーズ・ニーズ、連携事例など329件の展示があり、様々な知見に出会う機会となったようです。

ポスターセクションは、「カーボンニュートラル環境エネルギー、データサイエンス、経営、ものづくり全般等」、「バイオ分子生物細菌、食料品、農林水産、医療福祉等」、「交通土木建築、防災、産業振興観光、教育文化等」、「産学官連携研究支援、総合分野その他」の4つに分類され、栃木県支部は「交通土木建築、防災、産業振興観光、教育文化等」に分類され展示しました。展示は「栃木県支部の活動」、「技術士の業務」、「-竹と土と草からつくった-浮島による生態系の創出-（元）市貝町立小貝中央小学校のプールで地域の活性化」としてのいちかい浮島プロジェクトを展示しました。

ブースに立ち寄って頂いた多くの方は、いちかい浮島プロジェクトに興味があり、取組内容や効果

について質問されていました。また、浮島や竹というキーワードで立ち寄って頂いた方もいました。

そのほかにも、企業の方が認証に向けてのアドバイスをいただきたく支援してほしいなどの要望もありました。とても効果的なポスター展示でした。

今回のポスターセクション以外にも、講演会が開催され、企業・自治体・研究者などを招き、社会・企業課題の解決に向けたデータサイエンスの現場実装について実施されました。



とちぎ♡ライフスタイルフェスタ 2025 の出展報告

県支部幹事 西谷 元則

日時：令和 7 年 9 月 20 日 10:00～15:00

会場：ライトキューブ宇都宮 大ホール

スタッフ：福田一郎支部長、亀田則男副支部長、島田源一（防災委員長）、井本郁子（地域社会貢献副委員長）、富田卓哉（地域社会貢献副委員長）、山木雅彦（地域社会貢献委員）、西谷元則（地域社会貢献委員長）の 7 名

今回は下野新聞社主催の「とちぎ♡ライフスタイルフェスタ 2025」に初めて出展しました。

協賛出展ブースは、32 社 33 ブース（出展 26 ブース、車両展示 6 ブース、その他 1 ブースであり、その他に特別講演「<耳から始める認知症予防～補聴器の“新常識”で脳が変わる～」講師／済生会宇都宮病院 耳鼻咽喉科主任診療科長・聴覚センター長 新田 清一 先生」や「お笑いステージ 「レインボー」（吉本興業所属）による漫才」などが行われました。来場者は約 4,000 人と聞いています。

栃木県支部は地域社会貢献委員会と防災委員会のコラボで出展し、「栃木県支部の活動」、「技術士の業務」、「(元)市貝町立小貝中央小学校のプールで地域の活性化」として、いちかい浮島プロジェクトの活動を展示しました。さらに体験学習として「液状化の実験」と「災害時の新聞スリッパづくり」を行いました。

多くの子どもたちがブースに立ち寄って「液状化の実験」を興味深く実験を行っていました。「液状化は聞いたことあるが原理を視覚化して解りやすい」大人の方に言葉をいただきました。さらに「災



害時の新聞スリッパづくり」も好評で、小学生でも簡単にできることから一緒にスリッパをつくりました。

家でも作成でき、お掃除用のスリッパとしても良いとお母さまから評価をいただきました。

宇都宮駅に隣接しているため、来場者も多くありとても技術士会を周知できたと思います。液状化の実験などから、科学技術の原理に興味を持ち、将来は技術士を目指してほしいと感じました。



写真 防災スリッパ作成の様子



写真 防災スリッパ

《特 集》

協賛団体技術者の紹介

1. 自己紹介

株式会社 エース設計

技術部 広瀬 紀之 氏

趣味： バンド、音楽鑑賞、釣り、サイクリング、料理

幼少の頃から音楽が大好きで、CDを聴いて歌を覚えたり、テレビの音楽番組にくぎ付けになっていました。特にシンガーソングライターが自らの想いを込めて紡ぐ曲に惹かれます。その人がどんな気持ちで曲を書き、どんな思いを込めて歌っているのかを感じられるところが魅力です。最近では、優里さんや藤井風さんの楽曲がお気に入りです。

また、自転車でのサイクリングも趣味のひとつです。知っている場所でも自転車でゆっくりと走ることで新しい景色に気づけることがあります。そんな発見を楽しんでいます。



2. 経歴

- 2005年 3月 白鷗大学 経営学部 ビジネスコミュニケーション学科 卒業
- 2007年 11月 海外での語学留学を終えて帰国
- 2008年 3月 株式会社計測技研 入社
- 2020年 4月 株式会社エース設計 入社

3. 仕事内容と今後の目標

・入社した動機

前職では IT 業界でシステムエンジニアとして働いていました。その中で、「自分の IT スキルは他の業種でも活かせるのではないか」と考えるようになりました。特に土木分野では、3D 技術など新しいデジタル技術が活用され始めていると聞き、伝統的な技術にデジタルを掛け合わせることで、より効率的で精度の高い事業の展開に貢献できるのではないかと感じていました。

IT は幅広い分野ですが、土木にはその領域に特化した専門性が求められます。そこで、自分のスキルを活かしつつ新たな専門知識を身につけて成長したいと考えるようになりました。未知の技術に挑戦する不安もありましたが、それ以上にチャレンジしてみたいという思いが強く転職を決意しました。

この新たな職場において、新たな価値を生み出していきたいと思っています。

・現在の仕事

主に交通計画に関わる業務を担当しています。既存の道路や交差点に対してどのように改良すれば安全かつ円滑に走行できるか、交通事故を減らせるかといった視点から計画を立案したり図面を描いたりしています。

また、社内では SE 的な役割も担っており、PC やシステムのトラブルが発生した際に迅速な対応ができるよう備えています。トラブル対応を通じて新たな知識や技術が身につき、自身の成長につながっていることも実感しています。

・現在の興味ある仕事

現在は、3D 技術を積極的に活用する BIM/CIM の業務に強い関心があります。データを立体的に扱うことで、これまでにない視点から計画を検討できることに魅力を感じています。

また、プローブデータなどのビッグデータを活用した交通計画にも興味があり、多様なデータを分析することでより安全で効率的な道路計画の提案につなげていきたいと考えています。

最近では AI を用いたデータ解析や設計支援にも着目しており、交通量予測や事故リスク評価など、AI が持つ分析力を土木分野へ活かすことで、新しい価値を生み出せるのではないかと期待しています。

・技術士に向けて

取得までには時間がかかると思いますが、着実に力をつけ、いずれは技術士資格の取得を目指したいと考えています。

・将来の目標

土木業界では、若手技術者の減少が深刻な課題となっています。その中で、業務の効率化がますます求められることから、まずは土木分野の専門的な知識をしっかり身につけ、自分自身の技術力を高めていきたいと考えています。

併せて、新しい技術が次々と生まれる中で、IT を活用して業務の効率化を図り、現場の負担を少しでも軽減したいと考えています。

語学留学で培った経験や視野も活かし、国内外を問わず多様な問い合わせに柔軟に対応できる人材として、より幅広い案件に携わり、地域社会に役立つ技術者を目指しています。

ものづくりに携わる浙江省科学技術庁職員等との交流と産学官への訪問見学

県支部幹事 龜田 則男

1. はじめに

公益社団法人日本技術士会栃木県支部では、令和7年10月18日～25日の8日間、中国浙江省科学技術庁の地方職員8名を「さくらサイエンスプログラム」の支援を受けて招へいし、あわせて自己負担による中小企業者16名を受け入れました。

一行は栃木県内の製造業各社および研究機関等を訪問し、日本側専門家との技術交流を活発に行いました。浙江省と栃木県は友好提携32周年を迎え、科学技術を中心とした交流が一層深まっています。以下、今回の交流訪問について報告します。

2. 観察見学

1) 10月19日(日)

東京お台場の日本科学未来館では日本の先端技術に触れ、参加者全員大変興味を持って見学しました。中国にはこのような施設がないとのことで、大勢の子供達が見学している様子を羨ましがっていました。また、中国大使館では「さくらサイエンスプログラム」の報告をしておりました。



写真-1 日本科学未来館前で記念撮影

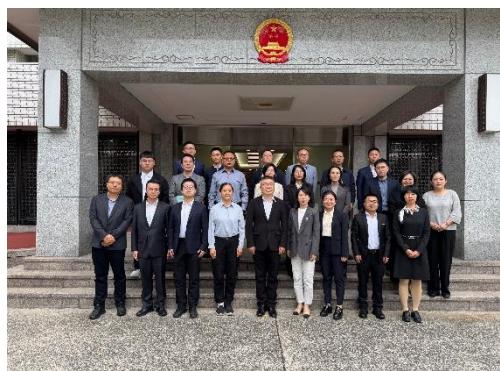


写真-2 在日中国大使館で記念撮影

2) 10月20日(月)

宇都宮市の栃木県産業技術センターでは、分析機器や電波暗室の見学を通じ、県内企業支援の技術基盤の高さを実感していました。



写真-3 栃木県産業技術センター



写真-4 大型電波暗室見学

宇都宮市の栃木県庁への表敬訪問では、赤岩副知事および関係部局の方々から、盛大な歓迎を受けると共に、記念品の相互贈呈や歓談をしました。



写真-5 赤岩栃木県副知事への表敬



写真-6 赤岩副知事との記念撮影

宇都宮市の高齢者福祉施設カルペ・而今の施設群を見学しました。最新の機器を取り付けたITベッドや看取りケア用につくられた特別個室を見学するとともに、質疑応答では、日本と中国の高齢者問題について多くの意見が交わされました。



写真-7 カルペ・而今 大山理事長と記念撮影

3) 10月 21日（火）

大田原市の資生堂那須工場では、会社の成り立ちや工場の概要説明を受けたあと、化粧品の生産ラインや製品出荷ラインを見学。最後に質疑応答と色彩に関するワークショップを受講しました。



写真-9 資生堂那須工場玄関で



写真-8 看取り特別室の見学



写真-10 色彩ワークショップ風景

さくら市のシンテックスでは、中国語に翻訳された会社及び製品概要説明を受けた後、階段昇降機の制作過程や製品の品質管理の現場を見学しました。質疑応答では、日本の中小企業の事業継承とその現状について、内容の濃い質問が行われました。



写真-11 シンテックス概要説明



写真-12 新工場にて写真撮影

4) 10月22日(水)

宇都宮市のカルビー宇都宮工場では、主力製造製品の説明の後、商品の梱包・出荷ラインを見学しました。また、会社名の由来や創業者の商品開発に対する思いなどの説明聞きながら、スタッフによる製品の試食が行われました。



写真-13 カルビー宇都宮工場



写真-14 製品の試食タイム

足利市の深井製作所では、会社概要説明の後、自動車部品製造現場の生産機器、搬送機器、保管機器など多岐にわたるロボット群により無人化された組立てラインと、自動化技術終結し、最新鋭の自動プレス機械にロボットを組み入れた生産ライン及び FMS プレスラインを見学しました。



写真-15 社員と全員で記念撮影



写真-16 専務による会社説明

足利市のハウスギャバン関東工場では、1200 種類ほどの原料を使い、約 1,600 種類のスパイスを1日2万缶製造しているとのこと。スパイス製造の説明の後、製造ラインを見学しました。



写真-17 ハウスギャバン



写真-18 約 30 種類のスパイスディスプレイ

4) 10月 23日(木)

日光市の日光きぬがわホテル三日月で当支部主催の技術セミナーを開催。経営工学部門の技術士による講演では、熱心な質疑応答がありました。



写真-19 当支部技術士による講演

5) 10月 24日(金)

栃木市の日立グローバルライフソリューションズ栃木工場では、冷蔵庫の生産ラインや品質・安全管理等の説明の後、工場の製造ラインを見学しました。



写真-20 招へい者の聴講の様子



写真-21 正門前で記念撮影



写真-22 質疑応答の様子

栃木市立岩舟小学校では、児童による給食の配膳と体育の授業を見学するとともに、招へい者も給食を実食しました。児童との交流も行われ日本の中学校教育を体験しました。





写真-23 学校給食の実食



写真-24 教室で給食を見学

3. おわりに

10月24日(金)、品川プリンスホテルにて、招へい者全員にプログラム終了証を授与し全行程を終了しました。

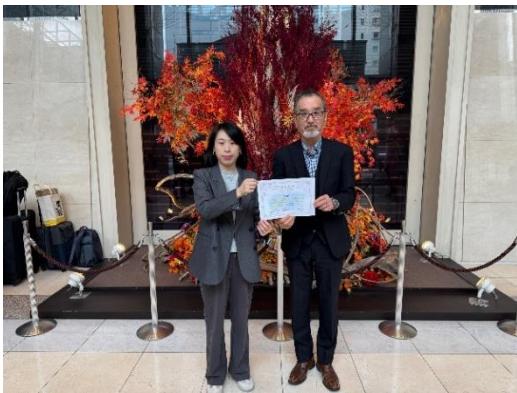


写真-25 終了証の授与



写真-26 招へい者との集合写真

8日間にわたる視察・交流を通じて、中国浙江省との相互理解と技術連携の深化に大きな成果を得ることができました。今後も両地域の産学官が連携し、ものづくり技術の発展と人材交流を推進してまいります。改めてさくらサイエンスプログラム及び関係各位に深く感謝申し上げます。

技術サロン @栃木 の報告

県支部幹事 井本 郁子

一技術士を目指す女性の集いー



写真-1 技術サロン出席者

主催:(公社)日本技術士会栃木県支部男女共同参画委員会

共催: (公社) 日本技術士会 DEI 委員会

日時 : 2025年11月15日(土) 10:00~12:00

場所 : NPOセンターぽぽら(栃木県宇都宮市)

出席者 : 計 7名

参加者 3名(県内企業社員)

スタッフ 4名(県内および県外からの技術士))

「技術サロン」とは、そもそもは技術士会の DEI 委員会（（旧）男女共同参画委員会）によって都内で定期的に開催されている女性の修習技術者のための交流会であり勉強会である。現在は Web での参加も可能な機会もあるが、それでも栃木県内の女性にとっては参加のハードルは低くはない。そこで今回、栃木県支部では、DEI 委員会の支援のもと県内の女性技術士者を対象として「技術サロン@栃木」を対面で開催することとした。話し合いは全員の自己紹介からはじまり、お茶とお菓子をいただきながらの、なごやかな集いとなった。中心的なテーマのひとつは、資格取得や継続的な学びが必要な中で、仕事や家庭生活とどのように両立するかという共通の課題であった。子育てや家庭での役割を中心に担いながら資格を取得した技術者からは「朝や土日の時間と図書館の活用」「仕事でのレポートや報告書作成などの経験を役立てる」「夜中のファミレスで勉強」「技術士を夫婦で受験」「職場内や技術士会が催す勉強会への参加」「通信教育の活用」など、時間や体力に限りがある中での悩みと対策が話された。その上で、無理を重ねるのではなく、自身の生活リズムに合った形で学びを積み重ねること、学ぶことを特別な行為として切り離すのではなく、仕事や日常と緩やかにつなげていく、などの考えが共有された。また、「完璧を求めるのではなく、自分なりのペースを尊重することが必要である」「伝える力や、社会との関わりを意識する視点が必要」ということが確認された。

資格取得後の変化については、技術者としての社会的な評価についての体験が語られた。そこでは、「名刺交換や顧客対応の場面において信頼のされ方が変わった」「職場内の評価が変化した」という事例がある中で、「組織内での評価には必ずしも直結しない」という例も語られた。しかし、どちらの場合にも共通することとしては、資格を得ることで技術士としてのコンプライアンスの遵守や責任を自覚し、仕事への自信を持つことができたことであり、それは目に見える昇進や待遇だけでなく、仕事への向き合い方や、将来の幅広い選択肢につながっているということであった。また、技術士会という組織を通じて、海外や異なる分野の技術者との交流など、広い視野での学びの機会が生まれることも大きな利点として述べられた。



写真-2 技術サロンの様子



写真-3 群馬県、埼玉県、栃木県産の菓子等を持ち寄る

茨城県支部との合同見学会報告

県支部長 福田一郎

令和7年11月20日（木）から21日（金）、茨城県支部会員手島久氏（建設部門）の他3名と栃木県支部会員福田の他4名、計9名が参加した合同見学会を実施した。

20日午前、数年前から茨城県支部から要望のあった電力中央研究所塩原実験場（那須塩原市関谷）を見学した。

当研究所は電気事業の中央研究機関として1951年に設立し、塩原実験場は1961年に開設した。全職員744人中388人が博士号を取得している研究機関である。多様な専門性を有する研究者の総合力を結集し、国内外の研究機関と連携して電気事業に役立つ成果を通じて社会貢献している。

宮島場長から研究設備の説明を受けた。場内には「①試験用変圧器（容量150万ボルト・アンペア）」、「②直流電圧発生装置（出力電圧最大±80万ボルト）」、「③試験送電線長さ750mを使用した帶電などの様々な電気的現象の解明等」、「④世界最大級衝撃電圧発生装置」などが設置されている。

当日は、幸いに実験日だったため、人工的な雷発生を5回体験でき100分の1の規模とはいえ一帯に轟く雷鳴に驚嘆した。このような電力の安定供給に資する「送配電線の雷リスク低減」等の試験研究を体感した。

昼食は、紅葉狩り観光客で賑わう道の駅「湯の香しおばら」で地粉を使った蕎麦に舌鼓をうった。

午後は、「那須野ヶ原土地改良連合」を訪問した。連合は、受益面積約4,250haの農業用水路の維持管理や小水力発電等を担い、調整池では「学生トライアスロン大会」、「防災ヘリの取水基地」としても活用している。今回は、小水力発電事業として9カ所（1943kw）の発電所の内、「那須野ヶ原発電所：340kw」を見学した。CO₂の年間削減量は915tになるという。その他、太陽光発電、家畜糞尿バイオマスエネルギー実証実験等、新・自然エネルギーにかかわる事業を展開している。2017年には「世界かんがい施設遺産」に登録された。短時間ではあったが健全な水循環を念頭にした農業用水再利用事業を学習した。

見学後、映画「テルマエ・ロマエ」のロケ地となった那須町の北温泉旅館に投宿し、かけ流し温泉に浸かりながら支部活動などについて情報交換した。

翌21日の午前中、宮内庁が管理する御用邸用地の約半分を環境省が譲り受け、平成23年5月に開園した「那須平成の森フィールドセンター」を見学。環境省の職員から丁寧な説明を受けた。その後、1998年10月末に発生した未曾有の那須水害（連續雨



写真-1 電力中央研究所塩原実験場
集合写真



写真-2 落雷発生実験



写真-3 小水力発電

量：1,254mm、復旧延長3河川：52km、530億円）の復旧現場（余籠川ふれあい公園）を見学。当時の被災水位碑や復興モニュメントなどを視察し帰途についた。

このような他支部との合同現地見学や情報交換は、個人のスキルアップはもとより、互いの支部活動を活性化に資するものであると実感した。

訪問先の各関係機関に謝意を表したい。

12月CPD講演会・懇親会の報告

県支部幹事 富田 卓哉

1. 開催日時：令和7年12月20日（土）13:30～15:30

2. 場所：宇都宮大学陽東キャンパスアカデミアホール

3. 演題：流域によみがえる御用川 400年の流れ

講師：山本 美穂 教授（宇都宮大学農学部）

林 陽輝 氏（宇都宮大学大学院地域創生科学研究科）

4. 参加者：日本技術士会栃木県支部 36名

5. 講演概要

本講演では、宇都宮地域における森林と河川、そして人々の暮らしとの関わりについて、歴史資料や現地調査の成果をもとに解説が行われました。

山本教授からは、宇都宮藩の成り立ちと江戸時代以降の森林利用の実態が紹介されました。森林は無秩序に利用されてきたのではなく、地域社会や制度の中で計画的に管理してきた点が強調されました。森林は、長い年月をかけて守り続けられてきた重要な資源であり、その背景について丁寧な説明がありました。森林政策や資源利用を歴史の流れの中で捉える視点は、現代の環境問題を考える上でも多くの気づきを与える内容でした。

続く林様の研究報告では、御用川を活用した木材流送の実態について具体的な説明がなされました。木材流送は、災害復興や社寺修繕といった緊急性の高い需要に応えるために実施されました。伐採、検閲、運搬、河川管理が、藩の統制のもとで一体的に行われていた点も明らかにされました。特に御用川は、城下町を支える重要な物流・資源供給の役割を担っていたことが印象に残りました。山村・農村・城下町がそれぞれの立場で役割を分担し、川を地域の共有資源として活用していた様子が理解できました。

質疑応答では、御用川の維持管理方法に関する質問が多く寄せられました。当時の森林管理体制についても関心が高く、活発な意見交換が行われました。さらに、近代以降の河川整備による変化についても話題が及びました。歴史的な仕組みと現代のインフラ整備との関係について、理解を深める場となりました。

本講演は技術分野とは異なるテーマでしたが、身近な御用川を題材としたことで親しみやすく、理解が進みました。地域の特性を踏まえた計画づくりや関係者との調整の重要性を、技術者として改めて認識する貴重な機会となりました。

会場をホテルニューイタヤ移し、令和7年最後の懇親会を24名の参加で行いました。



広報委員長のよもやま話

県支部広報委員長 西谷 元則

今回は、宮城県の蔵王山と白石城のお話です。私はお仕事で仙台と宇都宮を行ったり来たりしているので話題が宮城県内になります。ドライブで蔵王山に行きました。初めての晴れ。これなら登山でも良かったと後悔。エメラルドグリーンのカルデラ湖はとてもきれいでした。「昔はここで泳いだ」なんて言う人もおりました（ほんとかよ！）。

その足で白石城に行き天守閣より白石市を一望してきました。賑わいって感じではないですが、昔の城下町って感じの良い雰囲気！

次回は、武家屋敷をまわりたいです。

お昼は「やまふき亭」で「うーめん」と「はらこ飯」。おなか一杯で帰りは眠くなりましたが、休憩しながら仙台に戻りました。



編集後記

明けましておめでとうございます。昨年度は栃木県支部の組織、役員会が変更になり各委員会とも新メンバーによる活動になりました。大きな活動の変化は在りませんでしたが、今年に向けて活動内容を模索したところです。

技術士の資格取得した際の社会貢献への志が強かったものの、年月が経つと気持ちも薄れます。今年は、会員及び協賛団体、さらに非会員の方にも積極的に参加できるような企画を考えていきたいと思います。

イベントのPR方法も本部広報委員会の「PR TIMES」を使って、広報活動していきたい思っています。

今年もどうぞよろしくお願いします。

本会報の発刊にあたりご協力いただいた方々に、この場を借りてお礼申し上げます。

公益社団法人 日本技術士会 栃木県支部 会報 第24号 2026年1月発行

発行者：栃木県支部（支部長 福田 一郎）

広報委員会：委員長 西谷元則

副委員長 徳江義宏、吉岡 雅也、大島晃二

委員 大岩正通

事務局：〒321-0954 宇都宮市元今泉5丁目9-7 宇都宮まちづくりセンター内

Tel: 028-678-8600/Fax: 028-678-8630



～栃木県支部を支えていただいている～協賛団体（五十音順）

 宇都宮測量株式会社	 株式会社エスアイエイ環境事務所
 株式会社エース設計	 株式会社工藤設計
 株式会社格和測量設計	 KYOWA 協和測量設計株式会社
 株式会社景観プランニング	 晁洋設計測量株式会社
 建設コンサルタント 株式会社シー・アイ・エス Construction Information Service	 株式会社篠原設計
 株式会社真和技研	 大日本ダイヤコンサルタント 関東支社 宇都宮支店
 DAIMIC 株式会社ダイミック	 株式会社中央土木工学研究 Central Civil Engineering Research Co.,Ltd
 東亜サーベイ株式会社	 東洋測量設計株式会社
 建設コンサルタント・補償コンサルタント・測量全般 株式会社都市開発コンサルタント	 株式会社 都市環境設計室
 栃木県用地補償コンサルタント	－栃木県職員退職者の熟練技術者－ 栃木県庁OB職員技術士会
栃木県県庁職員技術士会	 日研測量株式会社
 日昌測量設計株式会社 NISSHO SURVEYING DESIGN CO.,LTD	 日本測地株式会社
 コンクリート製造販売・建設コンサルタント パスクイン工業株式会社	 PCRW 株式会社 ピーシーレールウェイコンサルタント
 株式会社富貴沢建設コンサルタンツ	 富士コンサルタンツ株式会社
 フジ測量設計株式会社	 芙蓉地質株式会社
 前田製管株式会社	 株式会社 水環境プランニング
 株式会社安田測量	 株式会社 緑生研究所